

15) 当科で経験した腺様嚢胞癌 6 例の臨床病理学的検討

小柳 広和・鶴巻 浩
 星名 秀行・森 勝
 長島 克弘・宮浦 靖司 (新潟大学歯学部)
 大橋 靖 (口腔外科第二教室)

当科開設以来20年間(1973, 12~1993, 11)に経験した、唾液腺悪性腫瘍23例の内、腺様嚢胞癌 6 例(26%)について臨床病理学的検討を行った。年齢:54歳~78歳, 平均 63.5 歳。男性 4 例, 女性 2 例。発生部位:口底 2 例, 口蓋, 頬粘膜, 上顎洞, 舌下腺各 1 例。TNM 分類: T1a・1 例, T2b・2 例, T4b・3 例, N0・3 例, N1・3 例, 全例 M0 であった。Stage 分類: Stage II 1 例, Stage III 2 例, Stage IV 3 例。組織学的分類: 充実型 1 例, 他の 5 例は管状型ないし篩状型であった。治療法: 手術+化学療法が 3 例, 手術+放射線+化学療法が 3 例。転帰: 生存 3 例, 死亡 3 例である。死因: 頬粘膜 T4b N1 の 1 例は 3 年後肺転移を認め, 肺部分切除術を施行, 4 年 8 ヶ月後局所再発を認め, 放射線療法施行, 6 年後原発巣死。上顎洞 T4bN0 の 1 例は 2 年後に肺転移認め, 7 年 6 ヶ月後死亡。口底 T2bN1 の 1 例は合併症(DIC)死。Kaplan-Meier 法による累積生存率は 5 年 8 3.3%であった。

16) G-CSF 併用療法を行った悪性リンパ腫の 5 例

上條 毅・野村 務 (新潟大学歯学部)
 新垣 晋・中島 民雄 (口腔外科第一教室)
 張 高明・若林 昌哉 (新潟大学第二内科)

現在, 非ホジキンリンパ腫の治療は, 多剤併用化学療法が一般的だが, 好中球数減少等の副作用の為, 治療に苦慮することがある。近年, 顆粒球分化・増殖因子である G-CSF が使用され, 好中球数の改善に効果が得られている。1991 年 4 月から現在までに化学療法に G-CSF を併用した非ホジキンリンパ腫 5 例について報告する。症例は, 男性 2 例, 女性 3 例で, 69 才から 77 才で平均 72.6 才。原発巣は上顎 2 例, 下顎, オトガイ下リンパ節, 左顎下リンパ節各 1 例で, stage I・IE 各 2 例, stage III E 1 例であった。組織型は, diffuse type が 3 例, follicular B cell の, large, medium 各 1 例であった。治療は照射後, 化学療法施行が 2 例, 照射単独 1 例, 化学療法単独 2 例であった。照射単独の 1 例は, 照射後 4 ヶ月で再発したため化学療法を施行した。化学療法は, 全例 CHOP 療法で, G-CSF を併用した。好中球数の

減少は軽度で, 重篤な合併症は見られず, 抗腫瘍効果は著明で良好に経過している。

17) 病名を告知したのち 7 年間長期生中の肝細胞癌非切除の 1 例

太田 大介・加藤 俊幸
 小越 和栄・斎藤 征史 (県立がんセンター)
 井上 博和・丹羽 正之 (新潟病院内科)

症例は74歳男性。1986年10月, 整形外科通院中に肝障害を認められ紹介, AFP 329 ng/ml のため入院した。入院時 GOT 82 IU/L, GPT 70 IU/L, T.B. 0.8 mg/dl, PT 77%, HBsAg (-), AFP 507 ng/ml であった。血管造影と肝 CT から St-A, 4.5×4.5 cm の肝癌を認め, 腹腔鏡下に確診された。臨床病期 I, 進行程度 T₂N₀M₀ Stage II であった。身体障害 3 級などから手術や治療を拒否したが, 病名を告知することによって TAE の同意を得た。現在まで 4 回の RAE を行い, 同時に総量 MMCmc 40 mg, ADM 30 mg を動注した。せらに PEI 療法も行い, 7 年 2 か月生存中である。本例では病名告知によって治療への積極性と自己管理が生まれ, 長期生存に結びついたと考えられる。

18) 胃癌肝転移症例に対する肝動注療法の検討

新国 恵也・鈴木 俊繁
 青野 高志・吉川 時弘 (厚生連長岡中央)
 佐々木公一 (総合病院外科)

胃癌肝転移症例に対する肝動注療法の治療成績について検討した。

1989 年 4 月より 1993 年 8 月までに当科で経験した胃癌切除例 693 例中, 肝転移陽性例 52 例(同時性 37 例, 異時性 15 例)を対象とした。

同時性肝転移例のうち肝動注が施行された 15 例を A 群, 肝動注非施行 22 例を B 群, 異時性肝転移症例のうち肝動注施行例 3 例を C 群, 非施行例 12 例を D 群として各群別に 50% 生存日数, 生存率について比較検討した。

	50%生存日数	1 生率(%)	2 生率(%)
A 群	262 日	46.5	9.3
B 群	166 日	11.8	5.7
C 群	482 日	100	-
D 群	169 日	0	0

generalized Wilcoxon test *p<0.05

1 年以上生存例は同時性 8 例(肝動注施行 5 例), 異